

鳥獣害対策だより

福島県避難地域鳥獣対策支援員とは

福島県では、2018年度より避難地域鳥獣対策支援員を避難地域12市町村に配置しています。地域住民と共に鳥獣害対策に取り組み、コミュニティの再構築を図ることを目的としています。

主な活動として鳥獣の生息状況、被害などのモニタリング、有効な対策の現地指導などを行っています。

知って役立つ！対策情報！

アライグマとハクビシン～生態と対策～

農作物や生活環境に被害を及ぼすアライグマとハクビシンについて、生態を理解して対策しましょう。

アライグマ

外見の特徴

尻尾に縞模様があり、目の周りに黒いラインの模様があります。

習性

手先が器用で、爪をかけて木や柱に登ります。雑食性ですが、トウモロコシ、カボチャ、スイカ、ブドウなど、糖度の高い農作物を好んで食べます。また、手を使って野菜の中身を取り出すことができます。



©環境省

アライグマの全身と足跡



©WMO

アライグマの食痕

ハクビシン

外見の特徴

尾が長く、額から鼻にかけて白い模様があります。

習性

木登りが得意で、爪のかからない金属の柱でも、吸盤のような足裏で登ることができます。

トウモロコシ、ブドウ、トマト、イチゴなど、アライグマと同様に糖度の高い農作物を好んで食べます。

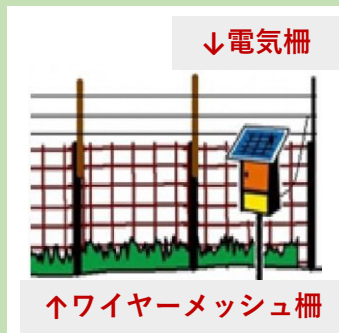


ハクビシンの全身と足跡

対策

アライグマとハクビシンは建物の屋根裏や床下をねぐらにする場合があるので、建物に侵入しそうな隙間をなくしましょう。

畑への侵入に対しては、農業残渣や生ゴミを片付けたうえで、ネットなどの上に電気柵を組み合わせた柵で防除することが有効です。



柵の例



ハクビシンの食痕



対策のご相談、情報提供はお住まいの市町村役場の担当課へ！

■地域での取り組み紹介（広野町と檜葉町）■

背景

アライグマは外来生物法で特定外来生物に指定されており、生息域の拡大が非常に速い動物といわれています。

広野町と檜葉町では、住民からアライグマの被害に関する相談がありましたが、町内のどの範囲にアライグマが生息しているか詳細がわかりませんでした。

そのため、福島県避難地域鳥獣対策支援員が、アライグマの生息範囲を把握するための調査を実施することになりました。

取り組み内容

アライグマは、侵入しやすい神社や仏閣などの木造建築を住処にします。

そこで、広野町と檜葉町の町内にある神社と仏閣のうち33カ所で、柱や壁などにアライグマの爪痕や足跡などの痕跡があるか調べました。

新しく建てられたところや改修工事をしているところを除き、調査したすべての神社と仏閣でアライグマの爪痕や足跡がみられました。

建物によってはアライグマが内部に侵入できる隙間や壁面の破損などがみられました。



アライグマの爪痕



アライグマが侵入できる壁の破損

結果

この調査で、広野町と檜葉町の広い範囲でアライグマが生息していることがわかり、今後の被害対策を実施するうえでの基礎情報が得られました。

被害対策の第一歩として、まずは広域にわたる生息状況の調査から地域の現状を把握するという取り組みでした。

